

コートダジュール大学  
BESIGN The Sustainable Design School 交換留学  
月例報告書 (3月分)

鈴木 梨恵琉



桜はないものの歩いていると花の香りがして春を感じます。春といえば、苺。私の大好物です。友人からスーパーの苺がとても安くなっている噂を聞きつけ、ラスト2パックを手に入れました！フランスのスーパーの苺はスペインやモロッコからの輸入品が多く、また日本のように多種類ではありません。日本の苺狩りや断面図カタログという日本の苺の種類を図を友達に見せると、とても興味津々で世界に広げてほしい！と言ってくれました。日本の苺が恋しい！

学校の友達が1輪のチューリップをくれました。それを持って歩いていると、コロンビア人の友達がとても驚いた顔で、なにこのかわいい花！と尋ねてきました。チューリップは私の中であまりにも有名な花だったので少し驚いてしまいましたが、逆に南米は私の全く知らない日常がいっぱいなのだろうと改めて思いました。頭で分かっているにもかかわらず驚くことはあります。彼女は家の庭にカカオの木があって、それを採りフルーツとして食べてから自分の家のキッチンで中の実を煎ってチョコレートを作るとも先日の会話の中で言っていました。私はそんな友達を想像して、まだまだ知らない日常がいっぱいある世界に面白い！素敵だと感じます。

新しいPartnershipが始まり、今期はAccentureという企業に参加します。企業が提示したトピックがSmart houseつまり未来の家とはどんなものだろうというもので、私は住居学について元々興味があったため第一希望として選びました。リーダーとなる私達の学年M1は、6人の配属が決まりました。その他の学年を合わせて15人でのプロジェクトです。M1はうまく進みそうなメンバーが集まったなと思いきや、既にすれ違いや意見のぶつかり合いが多発し、険悪なムードが…。性格の違いはもちろん、それぞれ異なる経歴、文化、思考過程を持つため、目標に向けて「同じ道」を歩かなければならないことが時に予想を上回って難しいです。私自身もその道じゃない方が良いと感じ

た時に、意見を提案しても思ったように進まないことも多く、自分がマイノリティーなのか…？と感じてしまうことも少なくはありません。それぞれの効率性や手法の違い、価値観の違いがうまく作用することもあれば、足を引っ張ることもあります。

3月9日。日本ではサンキューを Thank you とかけるので、日々の感謝と共にハッピーターンとひなあられを配りました。面白かったのは、異なる国出身の皆が「小さい頃に食べた気がする！」「似たような味のお菓子があるけど子供の頃で、名前が思い出せない！」と盛り上がっていたことです。どちらも高評価のなか、特にハッピーターンの味はより新鮮だったようで、もっと食べたい！という声が多かったです。



インド人のクラスメイトが、ホーリーをビーチでやろうと招待してくれました。ホーリーは、色とりどりの粉を体全体にぶつけ合うという少し大胆な祭りです。実はこのお祭りを大学の英語の授業で取り上げたことがあり、興味があった祭りなので実際に体験できて嬉しかったです。追いかけてこのように、色粉をつけ合って友達と楽しみました。黒い服を着ていたので、自分自身がアートになった気分でした。ここはフランスなので帰り途中は奇妙な目で見られましたが、楽しかったのでよし…。

今月は Eco and Poetic design という授業が印象的で興味深かったです。教授は私達日本人がいることを喜び「日本人は Poetic という考えを普段から持つから、この内容は君たちには簡単かもね！」と言っていました。参考事例も日本のものが多く、外の視点で日本のデザインを見ている感覚が新鮮でした。一方で、中には受け入れにくく感じていそうな生徒（特にフランス人）もいるようでした。講義では、先生がこれは「poeticすぎる」と言う事例も紹介しましたが、私にはその感覚・線引きが難しかったです。私の個人的な意見ですが、情緒的な思考を無自覚に持つ日本人の感覚とでは、その線引きに差があるのではないかと思います。



3月なので、自分もいるはずだった友人たちの SUAC の卒業式を、遠くフランスから見届けました。朝から学校にいましたが、これほど日本へのどこでもドアが欲しかった日はありませんでした！なんだか改めて色々な実感が湧いた日でした。懐かしい思い出と祝福の気持ちと少し寂しい気持ち。仲間の袴姿を見て、フランスでの友人と話す日々。それも長くないことを受け止めながら、どんなことも楽しむ気持ちで過ごしています！